組合員諸氏に急告

我等の工場を作れ

工場創立趣意書

・世の中が追々と進歩致しました、例へば現今のどんな、繁華な都會でも昔は種油のとぼしんあんどの、あかりしか、ありません、でしたが、それが段々と進歩發展につれて、石油洋燈になり、途に電氣に變化してしまひまして、只今では如何なる山奥の一軒家でも、昔の様な、あんどのあかりわ見たくても見られなくなりま　たのです、さて我々の従事して居る、友禪業わ、その昔諸君も御承知の通り、宮崎友禪齋が發明されたものです、それからは既に二百有餘年を數へますが、諸君どうです、友禪模様の花類松竹梅、櫻牡丹、紅葉龍虎或わ、五月織り等は、その昔も只今も、少しも變りなく、一種の美術として、いつの世になつても、變りなく歡迎されます、然るに美術は世の進歩につれられて、行くものです、「機械で出來ませんかと」或る人は尋ね又事實昔から金を投じてそれを考ねて居る人がすくなくありませんが、以前から、ナセン、と申します極く枚數の少くないものには機械の應用が出來ましよが、どんな機械をもつてしても、我々の手に有る技術を發揮することは決して出來ません、我が國の風俗の改革がありましても、花模様の美術は替はりません斯様な實力ある、結構な、職業に従事する我々こそは、實に幸福ではありませんか。

實力ある結構な職業に従事する我々がなぜ生活の不安を來たすか

之は皆さん社會に働かずして遊んで莫大な金を儲け美食贅澤を盡くし、冬は温泉夏は別荘と、己れのみ樂しみ、人間より金が、尊いと云樣な資本主義的制度と黄金萬能主義があるからです。惡い事は、だれしも、見ぬひやすく友禪工場主も、多少それに感化されまして、眼の前だけ考ねる一部少數の工場主は、温健なる、勞資協調で立ちたる、我々の職工組合も、未だに否認してをる有樣です。彼等は只だ金を儲けんとしては、己れの事のみ考ねて、産業の發達如何んは眼中にないのです、仕事が、少し、忙しければ、限りなく工場を擴張して、職工がたらなければ、西東も分らない、百性を、友禪職になれば、金が多くさん、儲かると云つて樣々に誘惑してつれて來るのです此れが爲め遂に金錢に目がくらみ悲慘な奴隷生活に陷つて來る徒弟もあります、諸君も善く御承知でしよ此の事は、明治四十二三年頃に七十三軒の工場で貳千人以上の職工が、大正四五年頃は、工場三十二なり職工は七百人程になりました、然るに廢業されました工場主の中には、結構に暮して居るのに、我々職工は一時に解雇されまして、失業の爲めに生活難に迫はれ、身になれない、アンコ雜役とか致しまして、どをぞこをぞ生命をつないだのではありませんか、斯くの如き悲慘な歴史を今又眼の前に見ようとして居るのであります我々は不安で考ずに居れません、英國には三百五拾年も昔に布を織る職工の、徒弟の使用人數を制限すると同時に、職人の賃金は、各地方の陪審判事が、公定して、職工の生活の保證をされましたりをであります、然るに我が國の工場主は産業の事も我々の事もかわりみず、忙しい時には、間に合せの徒弟を、養成して一時に金を儲けて廢業しようとして居るのです。不景氣になれば、すぐ、ぼばらふのではありませんか、故に徒弟は、我々職工が、制限して、養成、せな。けれれば、なりません決して工場主が養成してはなりません、工場主は多くの徒弟を養成して、一方に於ては我々職工の、正しい要求を壓迫し、又其の反面に、於て生産過剰を來たし、問屋の仕替賃金の競爭上必然と我々職工手間賃も低落するのであります前述の樣に我々は、實力ある、結構な職業に従事しながら、資本主義的制度の爲めに絶わず生活の不安を感じ十日も、病氣になれば、其の日が喰わないのではありませんか。今日迄での、状態は大略前述べました樣であります、天は自から助くるものを助くと云ふ事に就いて善く考て自分は、自分で救ふ事を考ねねばなりません。

如何にせば今より安心が出來るか

それは、我々組合員各自の資本で、工場を作る事であります、之が組合團体の目的です、教育購買救濟も必要賃金の紛爭の際も組合は活動せなければなりませんが、終局は我々の勞働工場を建設して奴隸の鎖りから脱れ皆んな樂しく働くことです。賃金の紛爭は、水の上に字を書くのと同じ事で、景氣の善い時には値上げ、不景氣の時には、値下げられ紛爭ある事に我々は大少の損害を蒙らなければなりませんのです、我々の工場を建設しましたなれば、勞資間の状態も明るくなり一般の賃金の制度も、平和に組合が協調が出來ますから自然勞資間も圓滿に行きます我々が一同賃金の紛爭がありまして四日の日を費すとしましたなれば、之が組合員全般に渡る時には、其の損害で八十名の大工場が建設されるのです、以上の理由で茲に大日本美術友禪工組合株式會社を創立し樣と相談が出來たのであります、株は可成組合員名簿記入者に平等に持たしめ持てない組合員に持てる樣なる方法を講じて記名株にして決して賣買の出來ぬ樣定款に規定し何事にても株主なる組合員一同の協議の上賛成を得て事業いたすのでありますから其の意を諒解されまして一同熱烈なる努力奮闘されまして御賛助あらん事を願ひます、次會に賛成の上發起人會を開會いたします發起人は各工場より一名選出の程を願ひます。

大正十年一月拾五日

組合員御中

各工場代表者役員一同

起業目論書

一、資本金五萬圓　但シ五拾圓株　壹千株

一、第一回拂込　壹萬貳千五百圓　但シ一株拾貳圓五拾錢

一、第一回拂込ミニテ事業ヲ開始ス

第二回拂込ム事爲カラン

起業計畫ノ大要

一、金四千八百圓　坪六拾圓建　八拾坪
　內五拾六坪　工場　但シ貳拾壹名
　貳拾四坪　ムシバ事務所形場糊場

一、金四拾圓　借用地代　四百坪　坪拾錢

一、金參千圓　板百枚　但シ一枚參拾圓

一、金壹百貳拾圓　形ト形舟

一、金六百圓　煙突

一、金參百圓　ムシ箱

一、金六百圓　万力　セイロ　カンく　デレキ　エノぐナベ
　其他糊場用器

一、金貳百圓　大鍋三個

一、金參百圓　家具諸道具

一、金貳百圓　糊桶百三拾

一、金參百圓　井戸堀費　道具一式

一、金壹百圓　車一臺　スイィ十ムシボ

一、金參百圓　登記費　創立費

總計

金壹萬〇八百六拾圓　右固定資本金

殘金

壹千六百四拾圓ヲ以テ事業開始ノ運轉資金トス

總計

壹萬貳千五百圓

收入見積之部

壹年間〆板上ゲ地付十五枚物平均

一、金五萬五千貳百五拾圓
　極市友禪　八千五百ヒ地
　但シ仕替賃金目下反拾貳圓ヨリ貳拾五圓迄デ
　右仕替賃ハ(反拾參圓トス)

說明

拾五枚物地付ばかりとして見積貳拾壹名工場ヲ十八名働クトス、壹ケ年ノ內二ケ月ハ不景氣ニテ休業トス拾ケ月就業シ、組合ノ工場故職工諸君に勉勵して一日平均、貳拾五枚ト六形スレバ既記ノ通リニナリマス

一年間ノの支出之部

一、金壹萬貳千七百五拾圓　職工手間賃

一、金壹萬貳千貳百四拾圓　但拾五枚物(七圓五拾錢トス)　染料トタ藥糊用藥品

一、金貳千九百七拾八圓四拾錢　糊粉代
　但シ一斗平均(六圓)
　但シ貳百〇四石(一仕掛一斗二升平均)

說明

糊粉精米七分餅粉三分八斗入リノカマス七斗五升トシテ
目下　精米八圓　餅粉十八圓　一斗　格壹圓四拾六錢

一、金七百九拾九圓　ロール水本代
　ロール代一切四錢七厘　水本代一切四錢七厘

一、金貳百貳拾九圓五十錢　トロ代
　一切二錢七厘

一、金參千圓　形ホリ代　但シ百柄

一、金六百六拾圓　形紙代三千枚　壹枚貳拾貳錢

一、金壹千圓　模樣圖案代

一、金壹百圓　シブ　ニガリ

一、金壹百五拾圓　形うるし代　一枚五錢平均

一、金八拾圓　形ツリ代

一、金壹千貳百圓　石炭八萬斤

一、金壹千百四拾圓　糊場雜役　三人貳拾圓　一人參拾五圓ムシバ

一、金貳千八百八拾圓　店員月給　但シ染料合ト配色師百圓
　店員五十圓、問屋行七十圓女宮二十圓

一、金壹千貳百圓　形場ト見本

一、金壹千參百貳拾圓　全部の飯代　マカナイ費

一、金壹千〇八拾圓　職工二ケ月休業中ノ手當一人一日壹圓

一、金百貳拾圓　同業組合費

一、金貳百圓　板直シ大工手間賃

一、金壹百圓　五色トシ糸

一、金壹百七拾圓　問屋店則

一、金壹千百〇五圓　雜引

一、金四百八拾圓　借用地代

一、金壹千圓　火災保險交際費諸道具修善費諸税

一、金九拾參圓六拾錢　電燈料　夜業四ケ月分　常夜燈　五個

一、金壹百圓　ボカンばけ

合計金四萬七千七拾五圓五拾錢

純利益

金八千壹百七拾四圓五拾錢　利益六割五分

既記は見積りですから參考迄で記したのです諸君一同に研究を願ひます